

1

(30点)

2つの関数 $y = \sin\left(x + \frac{\pi}{8}\right)$ と $y = \sin 2x$ のグラフの $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ の部分で囲まれる領域を、 x 軸のまわりに1回転させてできる立体の体積を求めよ。

《解答》

$$\begin{cases} y = \sin\left(x + \frac{\pi}{8}\right) \\ y = \sin 2x \end{cases}$$

2式を連立して

$$\sin\left(x + \frac{\pi}{8}\right) = \sin 2x$$

よって、 $\frac{\pi}{8} \leq x + \frac{\pi}{8} \leq \frac{5\pi}{8}$, $0 \leq 2x \leq \pi$ に注意すると

2式を満たす x は

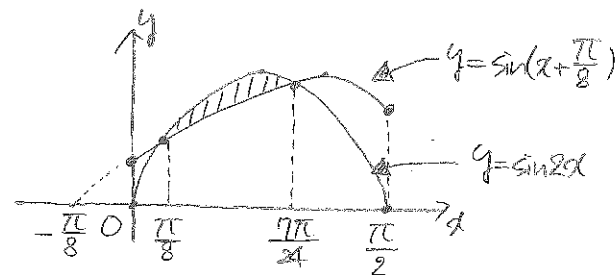
$$x + \frac{\pi}{8} = 2x \Leftrightarrow x = \frac{\pi}{8}$$

または

$$x + \frac{\pi}{8} = \pi - 2x \Leftrightarrow x = \frac{7\pi}{24}$$

よって

よって、 $\frac{\pi}{8}$ と $\frac{7\pi}{24}$ は $F(x)$ の x 座標となる。



よって、求める体積 V は

$$V = \int_{\frac{\pi}{8}}^{\frac{7\pi}{24}} \pi (\sin^2 2x - \sin^2\left(x + \frac{\pi}{8}\right)) dx$$

$$= \pi \int_{\frac{\pi}{8}}^{\frac{7\pi}{24}} \left(\frac{1 - \cos 4x}{2} - \frac{1 - \cos\left(2x + \frac{\pi}{4}\right)}{2} \right) dx$$

$$\begin{aligned} &= \frac{\pi}{2} \int_{\frac{\pi}{8}}^{\frac{7\pi}{24}} (-\cos 4x + \cos\left(2x + \frac{\pi}{4}\right)) dx \\ &= \frac{\pi}{2} \left[-\frac{1}{4} \sin 4x + \frac{1}{2} \sin\left(2x + \frac{\pi}{4}\right) \right]_{\frac{\pi}{8}}^{\frac{7\pi}{24}} \\ &= \frac{\pi}{2} \left(-\frac{1}{4} \sin \frac{7\pi}{6} + \frac{1}{2} \sin \frac{5\pi}{6} + \frac{1}{4} \sin \frac{\pi}{2} - \frac{1}{2} \sin \frac{\pi}{2} \right) \\ &= \frac{\pi}{16} \end{aligned}$$

よって

2

(30点)

次の2つの条件を同時に満たす四角形のうち面積が最小のものの面積を求めよ.

- (a) 少なくとも2つの内角は 90° である.
- (b) 半径1の円が内接する. ただし, 円が四角形に内接するとは, 円が四角形の4つの辺すべてに接することをいう.

《解答》

文系2と同じ.



3

(35 点)

- (1) a を実数とするとき, $(a, 0)$ を通り, $y = e^x + 1$ に接する直線がただ 1 つ存在することを示せ.
- (2) $a_1 = 1$ として, $n = 1, 2, \dots$ について, $(a_n, 0)$ を通り, $y = e^x + 1$ に接する直線の接点の x 座標を a_{n+1} とする. このとき, $\lim_{n \rightarrow \infty} (a_{n+1} - a_n)$ を求めよ.

したがって,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} a_{n+1} = \infty$$

より,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} (a_{n+1} - a_n) = \lim_{n \rightarrow \infty} (1 + e^{-a_{n+1}}) = 1$$

である.

《解答》

(1) $f(x) = e^x + 1$ とする. 曲線 $y = f(x)$ の点 $(t, e^t + 1)$ における接線の方程式は

$$l_t: y = e^t x + (1-t)e^t + 1$$

である.

l_t と l_s が一致するための条件は

$$\begin{cases} e^t = e^s \\ (1-t)e^t + 1 = (1-s)e^s + 1 \end{cases} \iff t = s$$

であるから, t の個数と接線の本数は一致する. よって, $(a, 0)$ を通る接線の本数は

$$0 = e^t a + (1-t)e^t + 1$$

$$\iff a = t - 1 - e^{-t} \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

を満たす実数 t の個数と一致する.

$g(t) = t - 1 - e^{-t}$ とおけば, $a = g(t)$ を満たす実数 t の個数は, $y = g(t)$ と $y = a$ のグラフの共有点の個数と一致する.

$$g'(t) = 1 + e^{-t} > 0$$

であるから, $g(t)$ は単調増加.

$$\lim_{t \rightarrow \infty} g(t) = \infty, \lim_{t \rightarrow -\infty} g(t) = -\infty$$

であるから, $g(t) = a$ となる実数 t がただ 1 つ存在する.

以上より, 題意は示された.

(2) $a = a_n, t = a_{n+1}$ として, $\textcircled{1}$ に代入すると

$$a_n = a_{n+1} - 1 - e^{-a_{n+1}}$$

$$\iff a_{n+1} - a_n = 1 + e^{-a_{n+1}}$$

が成り立つ.

よって,

$$a_{n+1} - a_n \geq 1 \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

であるから, n が十分大のとき

$$\begin{aligned} a_n &= (a_n - a_{n-1}) + (a_{n-1} - a_{n-2}) + \dots\dots\dots + (a_2 - a_1) + a_1 \\ &\geq n \quad (\because \textcircled{2}) \end{aligned}$$

が成り立ち, $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \infty$ である.

4

(35点)

一辺の長さが1の正四面体 ABCD において、P を辺 AB の中点とし、点 Q が辺 AC 上を動くとする。このとき、 $\cos \angle PDQ$ の最大値を求めよ。

《解答》

$AQ = t$ ($0 \leq t \leq 1$) とおく。 $DP = \frac{\sqrt{3}}{2}$ であり、 $0 < t \leq 1$ のとき、 $\triangle APQ$ 、

$\triangle AQD$ において余弦定理から

$$PQ = \sqrt{t^2 - \frac{t}{2} + \frac{1}{4}}, \quad QD = \sqrt{t^2 - t + 1}$$

である。 $PA = \frac{1}{2}$, $AD = 1$ より、これは $t = 0$ のときも成立する。

よって、 $0 \leq t \leq 1$ のとき、 $\triangle PQD$ において余弦定理から

$$\cos \angle PDQ = \frac{-t + 3}{2\sqrt{3}\sqrt{t^2 - t + 1}}$$

である。

$$f(t) = \frac{(-t + 3)^2}{t^2 - t + 1}$$

とおくと、 $0 \leq t \leq 1$ のとき $\cos \angle PDQ > 0$ であるから、 $f(t)$ が最大となるとき、 $\cos \angle PDQ$ も最大となる。

$$\begin{aligned} f'(t) &= \frac{-2(-t+3)(t^2-t+1) - (-t+3)^2(2t-1)}{(t^2-t+1)^2} \\ &= \frac{-(-t+3)\{2(t^2-t+1) + (-t+3)(2t-1)\}}{(t^2-t+1)^2} \\ &= \frac{(t-3)(5t-1)}{(t^2-t+1)^2} \end{aligned}$$

より、 $f(t)$ の増減表は次のようになる。

t	0	...	$\frac{1}{5}$...	1
$f'(t)$		+	0	-	
$f(t)$		↗		↘	

ゆえに、 $f(t)$ は $t = \frac{1}{5}$ のとき、最大値をとる。

以上から、 $\cos \angle PDQ$ は

$$t = \frac{1}{5} \text{ のとき 最大値 } \frac{\sqrt{7}}{3}$$

をとる。

5

(35 点)

a, b, c, d, e を正の実数として整式

$$f(x) = ax^2 + bx + c$$

$$g(x) = dx + e$$

を考える. すべての正の整数 n に対して $\frac{f(n)}{g(n)}$ は整数であるとする. このとき,

$f(x)$ は $g(x)$ で割り切れることを示せ.

《解答》

2 次式 $f(x)$ を 1 次式 $g(x)$ で割った商を $\alpha x + \beta$, 余りを γ とすると,

$$f(x) = g(x)(\alpha x + \beta) + \gamma$$

と表すことができる.

以下, $\gamma = 0$ を示す. $x > 0$ において $g(x) > 0$ であるから,

$$\frac{f(x)}{g(x)} = \alpha x + \beta + \frac{\gamma}{g(x)}$$

である.

与えられた条件から, 正の整数 n に対して

$$\frac{f(n+1)}{g(n+1)} = \alpha(n+1) + \beta + \frac{\gamma}{g(n+1)}, \quad \frac{f(n)}{g(n)} = \alpha n + \beta + \frac{\gamma}{g(n)}$$

がともに整数である. よって, 差をとって

$$\frac{f(n+1)}{g(n+1)} - \frac{f(n)}{g(n)} = \alpha + \frac{\gamma}{g(n+1)} - \frac{\gamma}{g(n)}$$

も整数である. 同様にして

$$\alpha + \frac{\gamma}{g(n+2)} - \frac{\gamma}{g(n+1)}$$

も整数である. したがって,

$$\begin{aligned} & \left(\alpha + \frac{\gamma}{g(n+1)} - \frac{\gamma}{g(n)} \right) - \left(\alpha + \frac{\gamma}{g(n+2)} - \frac{\gamma}{g(n+1)} \right) \\ &= \gamma \left(\frac{2}{g(n+1)} - \frac{1}{g(n)} - \frac{1}{g(n+2)} \right) \end{aligned}$$

も整数である.

ここで,

$$\begin{aligned} & \frac{2}{g(n+1)} - \frac{1}{g(n)} - \frac{1}{g(n+2)} \\ &= \frac{1}{g(n+1)} - \frac{1}{g(n)} + \frac{1}{g(n+1)} - \frac{1}{g(n+2)} \\ &= \frac{g(n) - g(n+1)}{g(n)g(n+1)} + \frac{g(n+1) - g(n+2)}{g(n+1)g(n+2)} \\ &= \frac{-d}{g(n)g(n+1)} + \frac{d}{g(n+1)g(n+2)} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &= d \cdot \frac{-g(n+2) + g(n)}{g(n)g(n+1)g(n+2)} \\ &= \frac{-2d^2}{g(n)g(n+1)g(n+2)} \neq 0 \end{aligned}$$

である.

また,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} g(n) = \infty$$

であるから,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{2}{g(n+1)} - \frac{1}{g(n)} - \frac{1}{g(n+2)} \right) = 0$$

となるので, 十分大きい n に対して常に

$$\left| \gamma \left(\frac{2}{g(n+1)} - \frac{1}{g(n)} - \frac{1}{g(n+2)} \right) \right| < 1$$

が成り立つ. $\gamma \left(\frac{2}{g(n+1)} - \frac{1}{g(n)} - \frac{1}{g(n+2)} \right)$ は整数であるから

$$\gamma \left(\frac{2}{g(n+1)} - \frac{1}{g(n)} - \frac{1}{g(n+2)} \right) = 0$$

であるが, $\frac{2}{g(n+1)} - \frac{1}{g(n)} - \frac{1}{g(n+2)} \neq 0$ であるので,

$$\gamma = 0$$

である.

以上から, $f(x)$ は $g(x)$ で割り切れることが示された.

6

(35点)

2つの関数を

$$f_0(x) = \frac{x}{2}, \quad f_1(x) = \frac{x+1}{2}$$

とおく. $x_0 = \frac{1}{2}$ から始め, 各 $n=1, 2, \dots$ について, それぞれ確率 $\frac{1}{2}$ で

$x_n = f_0(x_{n-1})$ または $x_n = f_1(x_{n-1})$ と定める. このとき, $x_n < \frac{2}{3}$ となる確率

P_n を求めよ.

《解答》

$0 < x < 1$ とし,

$$0 < f_0(x) < f_1(x) < \frac{1+1}{2} = 1$$

が成り立ち, x と $x_0 = \frac{1}{2}$ とし, 帰納的に

$$0 < x_n < 1$$

が 0 以上の整数 n に対して成り立つ.

$$A = \{x \mid x \text{ は } 0 < x < \frac{1}{3} \text{ である実数}\}$$

$$B = \{x \mid x \text{ は } \frac{1}{3} \leq x < \frac{2}{3} \text{ である実数}\}$$

$$C = \{x \mid x \text{ は } \frac{2}{3} \leq x < 1 \text{ である実数}\}$$

集合 A, B, C を定め, 0 以上の整数 n に対して,

$x_n \in A$ となる確率を A_n

$x_n \in B$ となる確率を B_n

$x_n \in C$ となる確率を C_n

と置く.

$$A_0 = C_0 = 0, \quad B_0 = 1$$

$$A_n + B_n + C_n = 1 \quad \text{--- ①}$$

$$(n=0, 1, 2, \dots)$$

である.

$x_n \in A$ とし, $f_0(x_n) \in A, f_1(x_n) \in B$

$x_n \in B$ とし, $f_0(x_n) \in A, f_1(x_n) \in C$

$x_n \in C$ とし, $f_0(x_n) \in B, f_1(x_n) \in C$

であるから,

$$A_{n+1} = \frac{1}{2}(A_n + B_n) \quad \text{--- ②}$$

$$B_{n+1} = \frac{1}{2}(A_n + C_n) \quad \text{--- ③}$$

$$C_{n+1} = \frac{1}{2}(B_n + C_n) \quad \text{--- ④}$$

である.

①, ③ より,

$$B_{n+1} = \frac{1}{2}(1 - B_n)$$

$$\Leftrightarrow B_{n+1} - \frac{1}{3} = -\frac{1}{2}(B_n - \frac{1}{3})$$

であるから, 数列 $\{B_n - \frac{1}{3}\}$ は $-\frac{1}{2}$ の等比数列である.

$$B_n - \frac{1}{3} = (-\frac{1}{2})^n (B_0 - \frac{1}{3})$$

$$\Leftrightarrow B_n = \frac{1}{3} + \frac{2}{3} \cdot (-\frac{1}{2})^n \quad (n=0, 1, 2, \dots)$$

である.

また, ②, ④ と $A_0 = C_0$ より, 帰納的に

$$A_n = C_n \quad (n=0, 1, 2, \dots)$$

が成り立つので, ① より

$$A_n = \frac{1}{2}(1 - B_n)$$

である.

以上より, 求める確率 P_n は,

$$P_n = A_n + B_n$$

$$= \frac{1}{2}(1 - B_n) + B_n$$

$$= \frac{2}{3} + \frac{1}{3} \cdot (-\frac{1}{2})^n \quad (n=1, 2, \dots)$$

である.